

【守谷市南部地域包括支援センター事例】

●事例1 民生委員や近隣住民からの情報提供ケース

<p>概要</p>	<p>認知症状を伴う独居高齢者（女性）が自宅内で転倒し 3 日後に隣近所、民生委員との連携によって無事救出された事例</p>
<p>家族構成</p>	<p>独居 兄は県北，弟は関東圏内，妹 2 人が東北に在住。</p>
<p>支援・ 対応経過</p>	<p>①R2 年 7 月 熱中症予防訪問の独居のため訪問 4 年前に夫が他界し，その後独居。近所との交流は少ない。訪問時，パジャマ姿で対応し，近所との関わりもはっきりしないことから認知症の疑いもあり，生活状況の確認のため担当職員が月 1 回の定期訪問開始。</p> <p>②定期訪問（月 1 回） 毎回，前回の訪問を忘れていたが，4 回目の訪問時にやっと玄関先から自宅内に入れ，親せきや食事について確認する。食事は，毎日近所のコンビニで同じ時間帯に同じものを購入。室内には賞味期限が切れた同じものがたくさんあった。</p> <p>③受診に向けてアプローチ 認知症の疑いが強いが，定期的な受診をしておらず，主治医がいなかった。そのため受診や介護保険につなげるために（妹の子）甥っ子に連絡し，現状報告を行う。了承を得られたものの，ご本人の混乱によりすぐには受診にはつながらず。甥っ子には緊急連絡先や，必要時の対応について了承を得ておいた。</p> <p>同時期に，民生委員や隣人に協力を依頼（新聞を毎朝取るのが日課のため，新聞が貯まっている場合は，連絡を頂けるようお願いをする）</p> <p>④定期訪問（2 週間／回） R3. 4 月～ 受診に向けて，定期的な訪問の継続。体重変化や言動変化等を確認。</p> <p>⑤定期訪問（1 週間／回） R3. 7 月下旬～ 体調の変化（脱水等）を懸念し，訪問回数を増やす。</p> <p>⑥隣人からの通報（定期訪問の 5 日後） 隣人・民生委員から新聞が貯まっていて尋ねても返答がないと通報があり，緊急訪問。雨戸は締まっているが，ラジオの音が聞こえ，エアコンの室外機が稼働中だが返答なし。警察に通報と同時に甥っ子や他の親戚に連絡するが 4 時間繋がらず。通報から約 5 時間後に警察官が窓ガラスを割り屋内に突入して安否確認。屋内に倒れていたが意識</p>

	があり，救急搬送され脱水状態と骨折のため入院加療となった。
今後の支援 ／課題	隣人や民生委員の方からの情報により緊急訪問に繋がり，救急搬送となった。今後，独居の高齢者が増える中で，緊急時の連絡先や安否確認の対応についての検討は必要であると考ええる。

●事例2 近隣・民生委員からの相談ケース

概要	認知機能が低下し，地域住民，民生委員，市役所，警察に本人が出向き被害妄想を訴えたケース。
家族構成	高齢夫婦と長男
支援・ 対応経過	<p>①本人が市役所窓口で相談 令和3年8月，「夫がコロナの予防接種を受けてから帰らない」「長男が帰ってきてその頃から知らない男性(長男ではない)が家にいる」等の訴えがあり，当包括に認知症の疑いで市から訪問依頼。</p> <p>②状況確認のため同日に訪問 訪問時，夫は在宅。本人から「夫は今寝ているから」と，話がかみ合わない。その際夫に怒られると訴え，それ以上の追及はせずに後日訪問にて確認とする。</p> <p>③何度か状況確認のため訪問 「誰かにみられている」「夫が車を壊してしまう」「何かを隠してしまう」などの発言が聞かれる。認知症の専門医の介入の必要と判断。</p> <p>④認知症初期集中支援チームの相談ケースとして，対応を検討 医療機関と調整し，9月下旬に認知症専門医を受診することとした。</p> <p>⑤受診1週間前頃から，本人の症状が不安定になり相談に動き回る。 保健センターや知人，元民生委員，区長等の数名に「誰かに通帳を預けた」「通帳が取られた」「お金を全部下ろされてお金がないのでお金を貸してほしい」とお金のことを訴えてまわった。 本人が訪ねた先の住民から民生委員に相談がよせられ，包括に情報提供があった。</p> <p>⑥夫や長男にも家庭内の状況を確認 訪問時に夫とも話をするが，深刻にはとらえておらず，同居する長男の協力を得ることに消極的であった。しかしながら，近隣の方への影響も出ているため長男には包括から連絡を取って現状を伝え，受診同行等の協力を求めた。</p>

	<p>受診当日に本人が妄想（家の水には毒が入っている）により脱水になり，救急搬送され入院となる。</p>
<p>今後の支援 ／課題</p>	<p>長男と夫婦は折り合いが悪く，長男は仕事のため都内に転居予定である。</p> <p>本人は，アルツハイマー型認知症と診断され，主治医から在宅での生活は困難であり，施設入所を勧められ，夫や長男も受け入れた。</p> <p>今後，高齢の夫（91歳）が独居となり，夫の認知面も心配される。長男の関りも消極的であるため夫の支援も検討していかなければならない。</p>

【事例から考える地域のネットワーク／見守り体制づくりについて】

- ・事例1では，近隣のコンビニ等への買い物や新聞を取っていることから，そのような関係機関とのやり取りも状況に応じては必要なのかと感じた。
- ・利用者の近隣の方や，民生委員の方，区長さん等の方々との顔の見える関係作りが必要であると考えます。